

懐かしの縁日大図鑑

縁日には懐かしい思い出がある。幼き頃は名古屋千種駅近くの高牟神社、池下駅近くの蝮ヶ池八幡宮などの縁日が記憶に残る。最近では、覚王山日泰寺の「弘法さん」も。久しぶりに、書棚にあった表題の本を手にとった。

はじめに「縁日をゆく人はすべてニコニコ顔」から一わた菓子やお好み焼き、金魚すくいなどさまざまな露店が並び、子どもも大人も心が浮き立つ縁日。縁日というと、まず露店のにぎわいを思い浮かべる人も多いだろう。もともと縁日とは、神や仏と縁がある特別な日のことをいう。観音や薬師、菩薩といった本尊と縁がある日や、高僧の命日、あるいは誰かが詣でた日などの記念日が、各寺社で縁日と定められている。各寺社では縁日になると祭礼や法要が行われ、参詣に多くの人を訪れる。そのため、寺の境内などで参拝客目当ての露店や市が立つようになり、にぎわいを見せるようになったのだ。昭和50年代ごろまでは毎日どこかで縁日が開かれ、さまざまな露店が立っていた。それが最近ではその数も減り、規模も小さくなってしまったようだ。



「縁日大図鑑」には、次の5巻が写真解説されている。「おやつ屋台の巻」として、わた菓子、アンズあめ、ハッカパイプ、かるめ焼き、あめ細工、リンゴあめ。「お遊び屋台の巻」として、射的、輪投げ、金魚すくい、水ヨーヨー。「おもちゃ屋台の巻」として、おもちゃ、お面、くじ、花火。「お食事系屋台の巻」として、昔の食べもの屋台、焼きそば、お好み焼き、タコ焼き、玄米パン、焼き鳥、イカ焼き、じゃがバター、七味唐がらし。「消えゆく屋台、生まれる屋台の巻」として、ひよこ売り、虫売り、べっこうあめ、パチンコ、カタ抜き、シャーッピン、ドネルサンド。そして「テキ屋・屋台にまつわるアレコレ」というコラムで構成されている。読みごたえ、見ごたえがある。

写真の「ひよこ売り」には、楽しさとともに苦い思い出がある。確か、蝮ヶ池八幡社の縁日だったと思う。この「ひよこ」は絶対メスなので、大きくなったら卵を産むという声に惹かれて買った。かわいいので、温めたりして大事に育てた。だんだん大きくなり、高見町のアパート4階のベランダに「小屋」を作った。

ある朝早く、「小屋」からコケコッコーと大きな鳴き声がこだました。近所迷惑だと叱られた。「メス」ではなく「オス」であった。だまされたことが分かった。このオスの鶏をどうしたか。それは今もって「秘密」にしておく。



(2016年6月10日)